



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 250
January
2014

トピックス

フィリピン台風被災地調査報告

アジア防災センター（ADRC）及び国際復興支援プラットフォーム（IRP）事務局が台風「ハイエン」被災地調査を実施、今後の支援

メンバー国との防災協力推進

2013年度ADRC防災政策ピアレビュー

●フィリピン台風被災地調査報告

アジア防災センター（ADRC）及び国際復興支援プラットフォーム（IRP）が台風「ハイエン」被災地調査を実施、今後の支援策を探る

2013年12月18日から21日、ADRCとIRPは、2013年11月初旬にフィリピン国レイテ島を中心に被害が発生した、台風「ハイエン」（現地名：台風ヨランダ）の現地調査を実施しました。本調査は、被災地現地で事前どのような予防対策と避難誘導が取られていたのか、また被災直後の関連機関による支援対応や今後の復興計画に向けて課題の抽出等を目的としたものでした。

現地調査で明らかになったこととして、まず災害予防策として、地方政府により、学校やカトリック教会、公共建築物などを利用した避難場所が既に設定されていることでした。さらに、被災者に対する緊急支援や救援物資の提供についても、現地指揮センター等において適切に対処するようマニュアルに記されていることも確認できました。しかしながら、想像以上の規模の高潮被害を受けたタクロバンの沿岸地域の避難所および現地指揮センターでは、想定内の災害対策は十分ではなく、被災地の一部では、多くの人々や家屋、備蓄用の支援物資が高潮や引き波によって流失してしまうと同時に、避難施設も壊滅的被害を受け、その後の救援活動が遅れる原因となりました。また、インフラ全般に大きな被害が生じた島嶼地域においては、通信、港湾などの施設復旧に多くの課題が生じていて、例えば、レイテ島ではタクロバン地域と比べて中山間地域で人的支援や救援物



[タクロバン空港の様子]



[村落コミュニティの周辺]



[被害を受けた漁村]



[レイテ州復興チームとの協議]

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
http://www.adrc.asia

© ADRC 2014

続き

資の提供に遅れが出ています。

今後の復興対策としてはまず、地方政府とコミュニティの両者間で、住宅復旧と生活手段の確保、インフラの再整備が最重要課題として認識されています。また、高潮によって大きな被害を受けた各地域では、避難シェルターが必要とされ、さらに、漁業やココナツ栽培などの農業従事者の人々は、失業対策や生活手段の確保など早急な経済対策が、加えて、地元生活者のための市場の復旧や輸送・エネルギー・通信インフラの確保についても求められています。

災害に強いまちづくりに資する復興や、より効果的な災害予防対策としては、高潮や台風等風水害に関する意識向上と啓発、一次指定避難施設および現地指揮センターの構造物そのものの強化や設置場所に関する見直し、早期予報警戒システムの機能強化等、ハード面・ソフト面両面の施策が考えられます。その上で、いざ実際に災害が発生した場合は、最善の応急対策が取れるよう、救援物資や支援の迅速なサプライ・マネジメントや、外部からの支援受入れの遅延を想定した「自助」対策、そして、地方政府とコミュニティの防災行政管理能力の向上など柔軟かつ弾力的な対策を講じることが必要であり、コミュニティがより積極的に関与できるような、住民参加型の災害予防・復興に関する人材育成プログラムの実施が効果的と考えられます。

こうした問題意識のもと、ADRC及びIRPとしては今後の復興支援事業として、まずフィリピン中部において、州政府など地方行政官を対象とした人材育成事業を展開、各自治体レベルにおける災害予防・復興計画のための技術支援を行うとともに、今年3月4～6日に東京で開催の「アジア防災会議2014」において、ADRCメンバー国間で情報共有することとしています。

この件についてのお問合せは、ADRC研究部の河内 (sk-kouchi@adrc.asia) または池田 (mikeda@adrc.asia) までお願いします。



[タクロバン市競技場の様子]



[タクロバン市の指揮センター]

●メンバー国との防災協力推進

2013年度ADRC防災政策ピアレビュー

メンバー国の能力向上及びメンバー国間での情報共有・関係強化を目指し、ADRCは2009年度から防災政策ピアレビュー事業を実施しています。5年目となった本年度はモルディブを対象国のひとつとし、同国からのカントリーレポートの提出後、評価チーム（ピアレビューアー）が現地に入り、聞き取り調査等を行いました。

今回のモルディブにおけるレビューのテーマは「緊急時における国内避難民に対する対応枠組の構築」で、ADRC職員1名の他、東北大学災害科学国際研究所のAnawat Suppasri准教授、ミャンマー社会福祉・救済再復興省のNwet Yin Aye氏がレビューアーとして参加しました。

評価チームは、防災に関する施策や研究などを行っている関係機関を訪問し、その取組について



続き

て調査を行うとともに、2004年のインド洋大津波による被災地視察や被災住民への聞き取りを通じて、同国の防災対策への評価と提言に関する調査結果案（専門家育成や法体系整備などによるコミュニティレベルでの防災力強化等）をとりまとめました。また、日本の東日本大震災による津波及びミャンマーにおけるサイクロンナルギスによる被害や国内避難民対策の取組を紹介するワークショップを開催し、現地関係者と情報共有や協議を行うなど、非常に有意義な機会を持つことができました。

本事業は、双方向での情報共有、学習を通じ、対象国のみならず評価チームに参加したメンバー国も学ぶことのできるプログラムを目指しています。今後は、評価チームが調査報告書をまとめ、対象国へ送付するとともに、ADRCメンバー国間でモルディブからの最終事業報告書を共有する予定です。

最後に、本事業にご協力くださいました関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。